

大和公民館だより

発行者 大和公民館

〒409-1203 甲州市大和町初鹿野 1693-1

館長(有賀)  主事(三枝)

◆ 今月の公民館事業は……

今年度の公民館事業として予定している、「社交ダンス教室」・「和太鼓教室」・「文化講演会」は、新型コロナウイルス感染防止のため開催を当面見合わせます。

また、12月恒例の「まほろばクリスマスコンサート」及び来年2月に予定されている「甲州市生涯学習推進大会」のうち、公民館ごとに童謡等を発表している「童謡フェスティバル」は中止が決定されました。まさに、コロナ禍です。

さて、去る9月17日には大和まちづくり推進会のビューティフル大和事業の一環として、スポーツ協会グラウンドゴルフ部の皆さんの協力により、大和スポーツ公園の草取りが行われグラウンドが日頃の手入れに併せて、いっそう整備されました。

さらに、大和の魅力をPRしようと、10月中の毎週土・日曜日にJR甲斐大和駅前で、まちづくり推進会会員が交代で大和町ガイドマップと甲州アルプスパンフレットの配布活動を開催しました。

篠子峠の西の麓の民話・伝説 一平山 槟太一

「牢の沢」(ろうのさわ)

大昔、不老の沢（ろうのさわ）に仙人が住んでいたという言い伝えがある。この沢一帯と京戸山にかけて「エブ」という、大粒の山葡萄が自生していた。この葡萄は、うまいばかりか食べると不老長寿を保つことができるというので、大変珍重された。麓の人々はこの沢を不老の沢（ろうのさわ）と呼んでいた。

甲斐の国を治めていた武田家が滅亡して徳川幕府の直轄地となると、柳沢吉保が領主となり、甲斐の国を治めることになった。

笛子峠の麓の五つ目の沢に武田家の隠し金山があるとの噂で、時の代官が科人を連れてきてこの沢に牢を造り、科人を使って隠し金山を探した。ところがついに見つけることができなかった。その代り良質の石英の鉱脈を発見した。しかし、当時は利用価値が少なかつたので、埋もれたままになった。

牢があったので、「不老の沢」(ろうのさわ) も「牢の沢」に変わってしまった。また、一説には武田勝頼公が徳川勢に敗け、新府を後に小山田信茂を頼って駒飼まで来たが、謀叛により笛子峠を越えることができず、軍資金を隠してやむなく天目山を目指して落ち延びていった。このとき、謀叛を起こした家来を牢に入れるため、この沢に牢を造ったともいわれている。

石英は、中央線が開通し交通の便が良くなつたので昭和の初めまで搬出された。